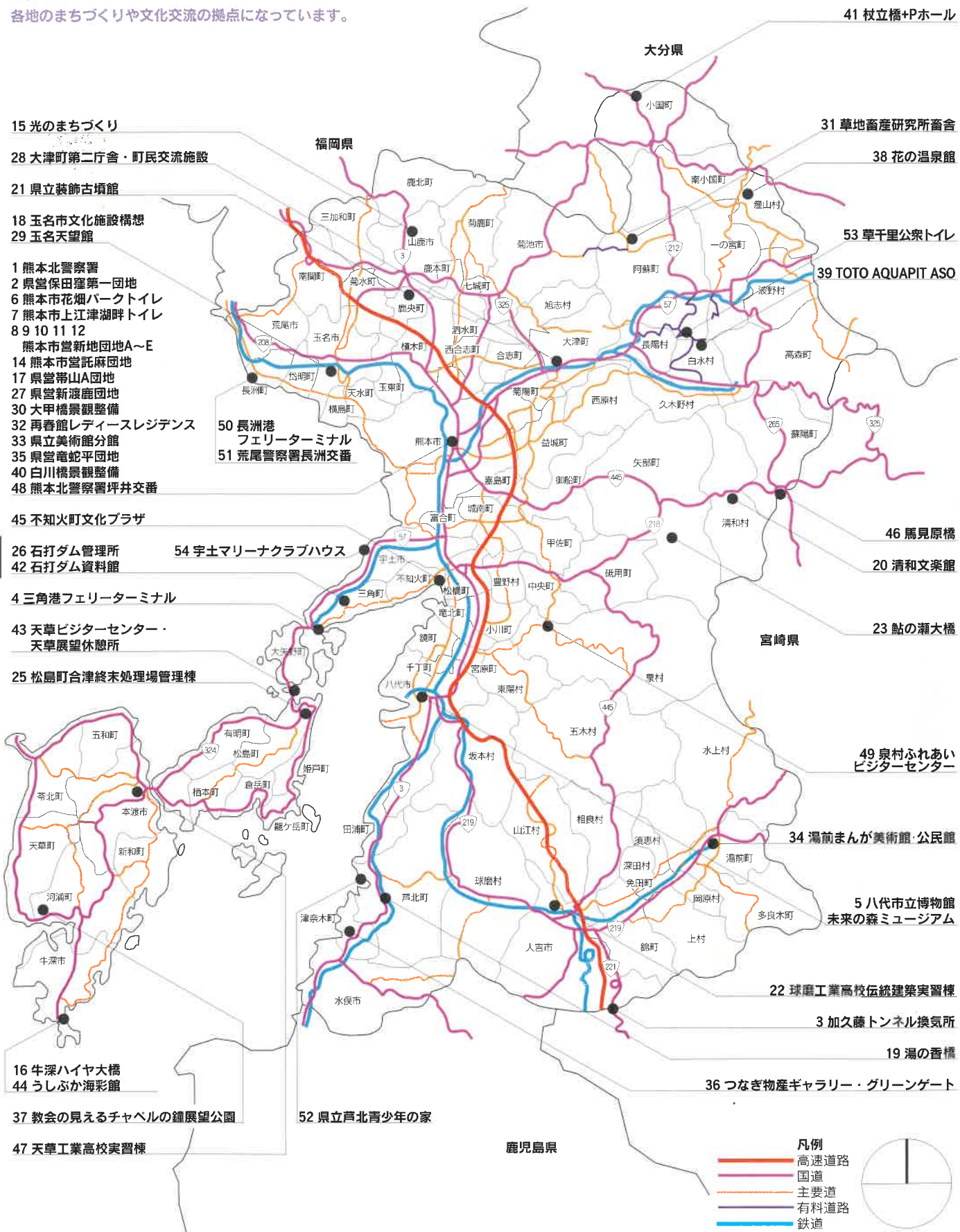


くまもとアートポリス・プロジェクト・マップ

熊本県内各地に建設・計画された
くまもとアートポリスの建築や施設（1996年3月現在）。
現在54のプロジェクトが竣工・進行中
各地のまちづくりや文化交流の拠点になっています。



竣工した熊本市営新地団地D棟（右）とE棟（左）。広大な中庭ではイベントも開催される

- 熊本国際建築展「くまもとアートポリス'96」に期待する
- 熊本国際建築展「くまもとアートポリス'96」の概要
- アートポリスのある風景——河浦町、湯前町
- シリーズ⑩くまもとアートポリス参加建築家に聞く——西岡弘、上田憲二郎

くまもとアートポリスニュース第17号
1996年春発行
●発行——くまもとアートポリス事務局
熊本県土木部建築課内 熊本市水前寺 6-18-1
tel 096-383-1111 (内線6215)
fax 096-384-9820
●編集——くまもとアートポリスコミッション事務局
東京都渋谷区渋谷2-4-7 YK青山ビル
建築・都市ワークショップ内
tel 03-3407-4753 fax 03-3407-8753

K·A·P

くまもとアートポリス'96 に期待する

堀内氏と6部会長大いに語る

11月を中心に開催される「くまもとアートポリス'96」。

いろいろな分野のひとびとがボランティア活動をしている。専門部会の見学、展示、シンポジウム、まちづくり、協賛事業、広報記録の6部会長と実行委員会の堀内清治副会長が'96への期待を語り合った。



'96に向け真剣に討論

出席者

実行委員会副会長：堀内清治氏
 見学部会長：牧野裕三氏（SDA建築設計事務所代表）
 展示部会長：中川久氏（中川建築設計事務所代表）
 シンポジウム部会長：古川裕久氏（桜樹会・古川建築事務所代表）
 まちづくり部会長：桂英昭氏（熊本大学工学部建築学科講師）
 協賛事業部会長：斎藤宏氏（環境建築工房代表）
 広報記録部会長：高濱純氏（中央総合建築事務所代表）
 司会：磯田桂史実行委員会事務局長（熊本県土木局次長）

2 「やさしさ」をすべての企画に

堀内 くまもとアートポリスは4年に1回、過去を総括し、次の目標を決めるイベントを行なっています。今回はその二期目の総括に当たります。みなさんのご意見を聞かせてください。

磯田 それではまず、それぞれの企画の狙いから始めましょう。

牧野 見学部会は、建築関係者だけでなく、それ以外のひとびとを取り込みたい。例えばボランティアを募って、身障者の方々にも見学ツアーに参加してもらえよう。身障者が乗車できるバスを借りてもいいと思います。

堀内 それは是非やりたい。
 牧野 見学部会としては、どんな方にもさりげなく対応できるようにしておきたいのです。

桂 「やさしさ」という視点を各部会に持ち帰って、企画をもう一度見直したらどうでしょう。会場係はボランティ

アの腕章でも付けて、来場者が声をかけやすくすることが大切ですね。

牧野 自然発生的に行なわれるのが一番の理想ですが、今回はやれるところまでやってみようと考えています。

展示は盛りだくさんの内容に

磯田 それでは展示部会をお願いします。
 中川 前回の92年のときは、それまでの作品をパネルと模型で、また、施工中の作品は模型だけの展示でした。

92年以前の作品には素晴らしいものも多く、また前回のパネルも保存されています。模型もいま、その状態を調査しており、できるだけ展示したい。92年以降の作品は、模型まで全部展示したい。

アートポリスによる波及効果があらわれている地域には、大々的に発表の場を与えたい。また、昨年、県と八代市が主催した八代のバス停のコンペも展示したい。アートポリス推進賞も事業の一環だから、

アートポリス作品並みに扱いたいし、92年のときに選定された既存建築物もなんとか展示したい。

盛りだくさんですが、県立美術館分館の会場スペースが前回よりも狭くなっています。既存建築物はひとつのパネルに収めるなど、テクニックでカバーするしかないと思っています。

磯田 地域への波及効果の展示は、どのような内容になりますか。

中川 まちづくり部会とのすり合わせが必要ですが、清和村には、アートポリスで建築ができたために、大勢のひとが行くようになった。清和村のような例は他にもあります。他の市町村にも見習って欲しいという願いを込めて、波及効果を展示したいと思っています。

桂 前は、地方都市の熊本でこんなに良い建築の展示ができるのかと誉められました。裏腹に、専門家以外のひとにはあまり評価されませんでした。

'96の展示企画は、どのような方向に向かっているんでしょうか。

中川 アートポリスはやはり専門家に評価を得ており、前回同様、ある程度専門家向けとならざるを得ない。ただ、一般とのすり合わせをどうするか、苦慮しているところです。

桂 上の階ほど専門的になり、下の階はできるだけ一般向けにして、そこを見たら、上の階も見たいような展示だといいたいですね。

中川 分館では、一度エレベーターで4階が上がってもらい、下りてくるルートを考えています。最初にアートポリス全体、そして波及効果を見てもらい、1~2階は世界の事例紹介と考えています。

新しく「フリーサロン」を企画

磯田 それではシンポジウム部会をお願いします。

古川 デザインサミットのバネラーの人選や構成は、コミッション事務局で行なっていますので、我々は自分たちの視点から意見を取りまとめています。

前回は、場所の違う会場で3分科会を開催したのですが、今回は1ヶ所で連続して行うように要望しています。対象をどうするか、いろんな人に来てもらうにしても、範囲が広くなりすぎ、レベルが落ちたのでは好ましくない。

だから、建築から範囲を広げ、アートとか環境に関心を持っているひとを対象にしたシンポジウムを考えています。

桂 シンポジウムには著名な方々が来られます。せめて、どこかで対話できないかという気持ちから、今回新しく「フリーサロン」が登場したのでしょうか。

古川 そうです。午前、午後とシンポジウムは続いているんですが、一息入れることはあるだろう。そんなとき、サロンで出演者とお茶を飲みながら話すことができます。そういうことがシンポジウムとしては必要なのではないのでしょうか。

桂 このフリーサロンの仕掛けを、かなり積極的に行なったらどうでしょう。少し演出を考える必要がありますね。

古川 地下の大会議室を借りており、せっかくですから、コーヒーを出すとか、

そんなところに予算を付けたいですね。
 斎藤 地下には和室もありますよ。
 桂 和室も借りたらどうでしょう。そこで小さな討論会でも開かれると面白いですね。

斎藤 協賛事業でいろいろな文化団体に声をかけたのですが、単独事業ではなかなか参加できないが、お手伝いならできるといった話が出ました。例えば、外国の方のために和室でお茶をたててもらうとか、お花を活けていただくとか、お願いしたらどうでしょう。

桂 それから、通訳を配置する。
 古川 サロンがあれば、お花などを大会議室に展示していただけます。

5つの市町村でまちづくり展

磯田 次はまちづくり部会です。

桂 前は、各市町村のイベントが盛り上がりましたから、今回それを期待して熊本市、山鹿市、阿蘇町、清和村、泉村でまちづくり展をやることにしました。泉村は実際のアートポリスの建築の棟上式を絡めた企画、阿蘇町は「農村公園アートプロジェクトコンペ」とあわせてやろうとしています。山鹿市は、光のまちづくり、清和村はアートポリス後を見続けようという企画になっています。

県下にまちづくりの輪を広げ、熊本市内に出かけづらい方々にも、まちづくり展の趣旨を理解していただきたいと願っています。前回のまちづくり展は、半年間もさまざまな方々に大変なボランティアをしていただいたことと、11月初旬の国際建築展から月末のフォーラムまで、あまり催し物がなく、間があいた感じになっていました。それが反省点でした。

そこで、今回は国際建築展と同時期に熊本まちづくり展を見ていただけるように「アートストリート」と「アートステーション」、そしてさまざまなシンポジウムを企画しました。アートステーションは空き地を利用して展示しよう、アートストリートはできるだけアートポリスのPR役をつとめようという企画です。

アートポリスが創造行為だとすると、建築に携わっていない音楽や造形あるいは美術のひとたちもたくさん参加したい。みんなで熊本をつくっていくのだからという企画にしたい。また、身障者のひとたちも含め、いかに多くの方々に理解していただくか、考えてみたいと思います。それともひとつ、竹などのひとにやさしい材料を使って、あまりゴミを出さないような企画にしたい。

多様なひとびとを巻き込もう
 磯田 それでは、協賛事業部会をお願いします。
 斎藤 協賛事業は、他から申し込みのあった事業に対してどう援助していくかを考える部会ですから、どちらかといえば受け身ののですが、基本方針としては、建築関係だけでなく多様なひとびとを巻き込もうと考えています。

多様なひとびとを巻き込もう

磯田 それでは、協賛事業部会をお願いします。

斎藤 協賛事業は、他から申し込みのあった事業に対してどう援助していくかを考える部会ですから、どちらかといえば受け身ののですが、基本方針としては、建築関係だけでなく多様なひとびとを巻き込もうと考えています。

これまでの折衝では、アート関係のひとたちはまちづくり部会にほとんど巻き込まれています。音楽や茶道のかたがたはお手伝いならできると、単独事業としては難しいという答えでした。

協賛する団体としては現在、建築以外のデザイナーとか写真家、それからまちづくり部会でカバーできない津奈木、宇城、蘇陽町などの地域の活動を取り上げることにしています。

このほか、建築関係もいくつか対象に上がっていますが、予算もありますので15事業ぐらいで収めようと思っています。

桂 資金援助の対象外となってしまう事業でも、広報紙に掲載してPRだけでも援助したらどうでしょう。

斎藤 建築住宅センターの住宅フェアやJIAの作品展など、資金援助は受けなくともいいという団体がいくつかあります。その辺は広報だけでも援助できないかという話もあり、現在、広報部会と相談しているところです。

それと複数の団体にひとつにまとまってもらってそこを協賛するような工夫を考えています。

協賛事業は、建築関係者以外のいろいろなひとを巻き込むのが面白いと思っています。

機会ある度に知ってもらいたい



堀内敬治
実行委員会副会長



磯田桂史
実行委員会事務局長



牧野裕三
見学部会長



中川久
展示部会長



古川裕久
シンポジウム部会長



桂英昭
まちづくり部会長

熊本国際建築展「くまもとアートポリス'96」

テーマ：
環境・文化・ひと
熊本の未来とアートポリス

プログラム：

アートポリス・シンポジウム

会期：11月2日(土)、3日(日)、4日(月)

会場：熊本県立劇場

プログラム：

■都市デザインサミット…11月2日(土)

<開会>…福島譲二熊本県知事

<基調講演>…磯崎新コミッション

<KAPプレゼンテーション>

<ゲスト・プレゼンテーション>

<ディスカッション>

…アートによるまちづくり…11月3日(日)

<ラウンド・セッション>…11月4日(月)

■アートポリス・フォーラム…11月30日(土)

見学会

■8月のコースと日程

<阿蘇・八代コース>…23日(金)～25日(日)の2泊3日

■11月のコースと日程

<阿蘇コース>…1日(金)と5日(火)の2日間

<八代市郡コース>…同上

<三角・松島コース>…同上

<五家荘コース>…2日(土)

<清和・石橋群コース>…9日(土)

<天草コース>…16日(土)～17日(日)の1泊2日

アートポリス展

会場：熊本県立美術館分館

日程：11月1日(金)～12月1日(日)

まちづくり展

■熊本まちづくり展

<アートストリート>

…10月29日(火)～11月5日(火)…上通、下通、新市街…

ストリートサイン、ウォーキング・ギャラリー、KAP文化祭、オリエンテリング

<アートステーション>

…10月29日(火)～11月5日(火)…上通、下通、新市街等…

『空←間→地』PA展ほか

<サテライトイベント>

○フランク・ロイド・ライト展…9月3日(火)～8日(日)

…県立美術館分館1階

○同シンポジウム…9月7日(土)…フィリングホール(予定)

○竜蛇平ミュージック・フェスティバル…8月24日(土)

…県営竜蛇平団地中庭

<シンポジウム>

○学生シンポジウム…11月4日(月)…会場未定…内容：建築家とのワークショップ(予定)

○オープニングシンポジウム…11月9日(土)…県立劇場地下大会議室(予定)…テーマ：「建築の原点をたどる」(予定)

○利用者シンポジウム…11月10日(火)…新地団地集会場(予定)…テーマ：「アートポリスの団地が周辺にもたらしたもの」(予定)

○構造シンポジウム…11月16日(土)…会場未定…テーマ：「熊本の建物は安全か」

○設備シンポジウム…11月16日(土)…会場未定…テーマ：「ライフ・ライン」(予定)

○施工者シンポジウム…11月17日(日)…県立劇場地下大会議室…テーマ：「日本建築の風土をたどる」(予定)

■山鹿まちづくり展

オープニングイベント

○オープニングイベント…10月12日(土)11時～…お祭り広場(下町・中町・桜湯)…マーチングバンド、屋台まつりほか(予定)

○夜のイベント…10月12日(土)17時～…お祭り広場(下町・中町・桜湯)…光のイルミネーション、灯笼おどりほか(予定)

伝統と未来のまちづくり公演会

○伝統と未来のまちづくり公演会…10月13日(日)13時半～…八千代座(予定)…テーマ：「外国人から見た山鹿の街」、「伝統と未来のまちづくり」

○町並みウォッチング…10月13日(日)10時～11時半…豊前街道一帯

各種展示企画

○アートポリスパネル展

○豊前街道町並み・寺社仏閣写真展など

■阿蘇まちづくり展

<アートポリス展>

…10月21日(月)～27日(日)…農村環境改善センター

<まちづくりシンポジウム>

…10月27日(日)…町立体育館…テーマ「環境と地域づくり」、交流会

<同アートプロジェクトデザインコンペ>

…KAP参加事業として平成9年度に建設予定

<町づくり体験オリエンテリング>

…10月26日(土)9時～…漱石コースなど

■清和むらづくり展

<村づくりシンポジウム>

…8月4日(日)13時～…文楽館…子供未来フォーラム／「アートポリスが地域に果たす役割」／「景観による地域づくり」

<ガリバーマップ>

…8月3日(土)～4日(日)…村民体育館

<清和の歴史・写真展>

…8月3日(土)～4日(日)…村民体育館

<小中学生が描く清和の未来展>

…8月3日(土)～4日(日)…村民体育館

<文楽色紙模型組み立てワークショップ>

…8月3日(土)…文楽色紙…各棟の1/3模型を組み立てる

■泉村むらづくり展

<棟上げシンポジウム>

…9月14日(土)…ふれあいビジターセンター(屋外)…「21世紀の暮らし方とは」／ディスカッション「人々が住みたい地域を目指して」(予定)

<記念イベント>

…物産品販売ほか

<平家伝説の里づくりツアーと民宿分科会>

…9月14日(土)～15日(日)

協賛事業

■熊本大学地域共同研究センター

<スペースストラクチャーセミナー>…7月～1997年1月…空間構造関係の講演会(予定)

■アートポリスを考える会

<アートポリスにオーケストラがやってきた>…9月21日(土)…市営新地団地D、E棟間の中庭でクイズ大会や野外コンサート

■熊本デザイン専門学校

<国際交流デザイン展>…9月～11月中…専門学校および海外姉妹校生徒の作品展

■熊本県建築士会宇城支部

<三角西港シンポジウム>…11月23日(土)…明治の遺産を見直し、臨港部の住宅環境整備を検討する

■くまもと21の会

<「熊本環境づくり」進歩・住・夢>…11月中…「21世紀に向かう「夢あるすばらしい熊本づくり」がテーマ

■蘇陽町

<水遊祭>…7月27日(土)…馬見原橋のたもとで祭、討論会

■熊本産業デザイン協議会(KD21)

<カラーシミュレーション>…10月下旬…「街をつくる色…熊本の街」についてアンケート等

■建築写真家集団

<建築写真家集団展>…11月中…全国の建築を専門とする写真家の展覧会

■つなぎ物産ギャラリー

<つなぎ青空市>…10月中…津奈木農協、漁協による物産展

■有明海自動車航送船協会

<納涼船>…7月末～8月初旬…納涼船および長洲港フェリーターミナルまでの物産展

■城南町

<城南町ピュリウム・インスタント・シティ・ワークショップ>…11月17日(日)…小学生による都市の未来についての議論と模型づくり

■公共の色彩シンポジウム実行委員会

<公共の色彩シンポジウム>…10月9日(水)…公共施設におけるカラーリングについてのシンポジウム

■新日本建築家協会 熊本建築家の会

<新日本建築家協会 熊本建築家の会作品展>…7月2日(火)～7月7日(日)…建築作品展



KAP'92 イベント風景

磯田 広報部会をお願いします。
高濱 広報部会は、アートポリスに関心のないひとを巻き込んでいく—という使命感に燃えています。年輩のかたがたはある程度の情報を持っておられるが、若い層があまり関心を示さない。そこで、ミニコミ誌などに掲載してもらおうと考えています。また、大手建設会社や建材メーカーなど、社内報を持っている企業をリストアップし、掲載をお願いしようと思います。われわれとしては、できるだけ多くのひとびとに、機会ある度に知ってもらいたいと願っていますし、その努力を続けたいと思います。

もう一度元に戻って考えよう

磯田 最後に「96」をどう成功させていくか、自由にご意見をお伺いしたい。
堀内 今回の『環境・文化・ひと』というテーマですが、コンセプトがわかりにくいという議論がある。
古川 部会でも最初に、その意図がわかりにくいという意見が出ました。ただ、今までアートポリスは建築だけをみていたが、これからはもっと周辺の環境、文化、そしてひとまで視点を広げていこう。そういう意味でこのテーマが出てきたのだと、われわれの部会では認識しました。
桂 コミッショナー事務局が提案したテーマのひとつに、これがありました。建築という言葉を使わなくとも、『環境・文化・ひと』イコール建築、という意味です。
最近、磯崎氏は「マスタープランによる

都市づくりが終わって、アートポリスのようにバラバラに打ち込んで行くほうが、いまの日本の都市づくりに合っている」と新聞などで発言しています。
よく考えると、8年間、熊本が頑張ったおかげで、アートポリスのテーマがきちっと成立しているわけです。今回のテーマもわれわれが築き上げていくことによって、後でなるほどと評価されるかも知れません。
堀内 ただ、ある程度テーマについて議論しておかないといけない。以前の『都市にデザインを、田園にアイデアを』というサブテーマとの関係はどうなりますか。その態度をはっきりさせておかないと、コンセンサスを得づらい。
それから、今回のシンポジウムや展覧会で何をやるのか。何が望みなのかははっきりしないと、ただ集まって議論しただけに終わってしまいます。
古川 前回のテーマを乗り越えた次の課題と認識したい。「都市にデザインを」という場合、どうしても建築だけに視点が行っていた。次なる課題は、それを乗り越えようという意味で、このテーマかなと思っていました。
堀内 これまで8年間のアートポリスを総括し、第3期に入ったとき、われわれは何を狙うのか。それが少しでも見えてくれば、シンポジウムの中で議論してもらって、われわれが何となく考えていることがもう少しははっきりしてくる。そうした目標が出てくれば、それは今回の大きな収穫になるのではなからうか。みんなの共通意識として何を目指とするのかを知りたいのです。アートポリスには、大変大きな賛否両論があったということを前提に、考えなければなりません。

桂 デザインやアイデアは、次のステップでは環境や文化、ひとに対してより具体的にどう提案していくかというテーマになったということではないでしょうか。
斎藤 「都市にデザインを…」には方向性を感じられませんが、今度のテーマはそれがあいまいだという面がありますね。
古川 例えば、清和村などは古くからの地域文化があったにしろ、アートポリスによって環境や文化、ひとの核ができ、それを中心に発展している。そんなふうで今回のテーマを捉えたい。
中川 アートポリスは突き詰めれば、環境、文化、ひとに集約されてしまうのではないのでしょうか。
磯田 今回の『環境、文化、ひと』というテーマは、『都市にデザインを、田園にアイデアを』というキャッチフレーズに相対するものだと実は思っていました。
環境、文化という言葉は、アートポリスのスタート時点からあります。今回のテーマは、もう一度アートポリスのスタート時点に戻って考えようか、という意味かなと思っていました。
議論は佳境に入ったところですが残念ながら時間切れです。この問題はみんなが考えてくる宿題ということにしましょう。本日はどうもありがとうございました。



斎藤宏
協賛事業部会長



高濱勉
広報記録部会長

アートポリスのある風景

地域文化とまちづくり

それぞれの地域に、独自の歴史や文化を刻み込んだ風景がある。

ひとつとは、その風景のなかで育ち、地域への愛着を深めていく。

このコーナーは「アートポリスのある風景」を、地域のひとつの視点から見直し、

彼らがアートポリスを契機にまちづくりをどのように考え、行動しようとしているのか——をレポートする。

アートポリスのある風景 ①

天草・河浦町崎津 教会の見えるチャペルの鐘展望公園

自分たちの手で第2のアートポリスを



海から見た崎津のまちなみ



チャペルの鐘展望公園から見た崎津天主堂

河浦町は南蛮文化の玉手箱

九州で南蛮文化をいまに伝える天草。そのなかでも、昔から「天草」と呼ばれた地域に、現在の河浦町がある。天草・下島の中央部にあり、東は不知火海、西は天草灘に面している。

アルメイダ神父の布教以来、キリシタンの伝統が伝わっている同町には、1591年から6年間、宣教師を養成した「コレジオ」（天草学林）の跡があり、天草氏の本拠だった河内浦城跡（現崇円寺の丘）からは数々の遺品が出土している。それは「南蛮文化の玉手箱」と呼ぶにふさわしい。その遺産を継承するため、町は近年「天草コレジオ館」を建設し、数々の天草本を印刷したグーテンベルク印刷機など貴重な品々を展示した。

崎津は、同町の西にある小さな漁村である。天草五橋ができるまでは、天草島の内外を結ぶ主な交通手段は、便船（渡海船）だった。崎津の入江は、羊の角のようにいりくんでいることから「羊角湾」と名付けられたリアス式海岸である。外

洋と違って変わり、波静かで、昔から潮まち、風まちの港として、明治期は天草無煙炭の積み出し港として賑わいをみせていた。

故司馬遼太郎氏は『街道をゆく』の「島原・天草の諸道」編の最終章で与謝野鉄幹、北原白秋らの新誌社の文人が訪れた「大江天主堂」そして「崎津」に行き着いている。

その崎津のシンボルが崎津天主堂（カトリック教会）である。崎津教会は1569年に建てられ、ここを中心にキリスト教は天草に栄えた。その後、迫害を受けたが、昭和9年ハルブ神父により再建された。現在の祭壇のあるところが、絵踏みの場所だったという。苦渋を飲み込みながら絵踏みした人々の魂を癒すかのように祭壇が設けられている。

チャペルの鐘展望公園をシンボルに

崎津天主堂は、海とともにある教会だ。その姿は、郷土史に詳しい御寄求氏が教えてくれたとおり「海の教会」と呼ぶに

ふさわしい。海辺の家々に守られるように立っているその姿は、本当に感動的だ。そこには、海の生活と一体となった地域の人々の長年の祈りがある。朝な夕な海に出、海から帰って来ると、船のうえにたたずみ、静かに頭を垂れる。そんな敬虔な生活と信仰のあり様が、その風景のなかに見えるようだ。そこに住む人々の感性を象徴しているようにも思える。背景となる山の頂上には、大きな十字架が建っている。アートポリス参加作品の「教会の見えるチャペルの鐘展望公園」である。対岸には最近、天主堂やその集落、そしてチャペルの鐘展望公園を展望できるミニパークが完成した。そこから見る天主堂と頂上の両方の十字架は象徴的だ。「せっかくチャペルの鐘展望公園ができたのですから、崎津の観光のシンボルとして生かしていったらいい」と同公園への登り口のところで喫茶店「ギャラリーカフェ NAZARETH」を運営する小林欣治氏。明日の富津を考える会の一員として、地域おこしに取り組む体験を通し、「住んで

いる人が、小さなことから、まず何かを実行して行くことが大切」と言う。「小学生の頃、初めて来たときの崎津の風景は、今も強く心のなかに深く残っている」とは、河浦町で贈答用の活車エビの生産販売をしている松中祐二氏（幸福堂代表）。そのときの感動があるから、チャペルの鐘展望公園が住民に説明不足のまま建設されてしまったと残念がる。「崎津の風景が持っていたグレードの高さをもっと大事にして欲しい」と熱望する。町の商工会青年部の部長をつとめる石田公和氏（石田豆腐店）は、若い女性たちにまちなみウォッチングをもらったとき「まちなみ自体が文化遺産ではないか」という意見が出たと紹介する。ただ、保存でどれほどの経済効果が得られるのか、それに地元の人々が耐えられるかどうか、と心配する。

2時間は滞在できるまちに

それでは、崎津の地域づくりをどのように進めていったらいいのかが、先に登場した小林、松中、石田の3氏に郷土史家の御寄氏を加え、じっくりと議論してもらった。以下はその要約である。

「古いまちなみを文化遺産として大切に保存していけば、倉敷や内子町のように、将来きっと経済効果が生まれる」と松中氏は主張する。そのためには、トタン張りなどは、木などの自然材料を使ったものにリファインするといった工夫が必要だと考える。

御寄氏は、行政につとめていた経験から保存条例を制定し、古いまちなみを保存する手法もあることを知っている。

しかし、崎津住民の小林氏は「なぜ今ごろ保存か」と反論する。家はそのときどきの利便性によって改造されてきたのだから、10年前より生活しやすくなったのは確かだ、というのだ。

それより、教会の周辺に楽しみながら歩いて回る場所がないから、「教会を5分も

見ると、観光客はそそくさとバスで出ていく」。だから、まちのところどころにちよつとしたミニパークを設けたり、海を体験しながら教会を撮影できるような企画をあみだし、「せめて、2時間は楽しみながら滞在できるまちにできないか」と考えている。

第2のアートポリスをライトアップで

まちなみを修景して保存すべきだ考える松中氏はこう言う。「まちなみ自体がアートなのだから、『第2のアートポリス』として、まちなみをさらに高めるアートに取り組むべきだ。それが観光につながっていいのではなかろうか」。

それではどのようにして「第2のアートポリス」を具体化するか。松中氏はライトアップを提案する。「それも単色ではなく、時間とともに色を変化させたらどうか」。

「それなら、対岸が生きてくる」と小林氏が応じる。同氏は以前から、対岸に屋形船でも並べて観光客に食事をしてもらい、夜は近くの民宿に泊まってもらうまちの活性化プランを夢想していたそう。人が長時間滞在するようになれば、自然とみやげものも売れるようになる。そうすれば、海産物やみやげものを売ろうという人も増え、まちに活気が出てくる。「崎津の景観には、それくらいの魅力はある」と自信を持っている。

御寄氏も「崎津に魅力があるから、文人たちが大江教会から船でやってきた」と、その風景を高く評価する。ただ、そうした文人たちが宿泊した紋付屋旅館が最近、壊されてしまった。そのことが大変残念そう。

この紋付屋は、船を交通手段としていた天草独特の建物で、玄関が海に向かっており、海から石段で上がるようになっていた。司馬遼太郎は「朝、目がさめると、紙障子に舟の影がうつっていました」と桑原武夫から教えられた、と『街道をゆ

く』に記しているが、その旅館が紋付屋だ。司馬氏も宿泊しているが「潮の洗う段には、青苔がついていた」「この宿にとまって晴れた朝をむかえれば、障子に船の影が映るのも当然とおもわれる」と同書で披露している。

自分たちの手で風景を守り育てる

「住民の意識で、例えばゴミひとつ落ちていないまちにするとか、まず、小さなことから変えていかなければならない。小さなことでも、誰かが実行して成功することがたいせつだ。そうしたら、みんなのやる気がでてくる」と、小林氏は話す。松中氏は「崎津は1次産業のまち。だから、1次産業のまちとして今後、どのようにしていくか、その長期ビジョンが必要だ」。その一例としてヨーロッパで注目を集めている1次産業を生かした観光を取り上げ、「崎津でもそういう組み合わせを考えたどうか」と提案する。

河浦町はいま、人口約7,500人だが、人口の減少化傾向が止まらず、高齢化率も高まっている。ある地区では、高齢化率が30%近くに高まっているそう。

「そうした現状を克服するにはまず、行政と民間が役割分担することだ。そのためにも、『第2のアートポリス』が必要だろう。新しいものをつくりながら、崎津の景観の質の高さをどう守り育てていくか。せめて、家の外側だけは最低木造にするとかできないか」と同氏は指摘する。

崎津の住民である小林氏は、防災上からも新建材を使用するようになったのだし、景観条例で外装を制限するようなことは、かなり難しい、と考える。むしろ「やる気が出て来るような活動を続けていくことが大切」と、住民意識の高揚の必要性を強調する。そして、最後に、天草弁でこう結んだ。「われわれは死ぬまでここに住むとですから、われわれがもたないと言わなるとですよ」。



教会の見えるチャペルの鐘展望公園

崎津のまちなみ

天草コレジオ館のグーテンベルク印刷機(天草コレジオ館/パンフレットより)

天草コレジオ館

球磨郡湯前町 湯前まんが美術館・公民館

現代の「み仏の里」でまちおこし



浄泉寺（浄心寺）阿弥陀堂（国指定重要文化財・左）と十三重石塔（右）

県下最古の木造建築・城泉寺

それは、心の中の風景である。山懐に抱かれた湯前町、地元のひとつとは「み仏の里」と呼ぶ。鎌倉時代から続く約750年近い歴史を持つ寺院があるから、み仏の里なのではない。親から子へ、子から孫へ、ごく自然に神を敬う心を伝承してきた。だから、み仏の里と呼ぶ。「人吉・球磨には、熊本県下の文化財の半数以上があります。湯前にある代表的な文化財が、鎌倉時代に建立された国指定文化財・城泉寺（別名・浄心寺）阿弥陀堂で、県下最古の木造建築です」。郷土史家の藤田時男氏は、静かに語り始めた。同寺は鎌倉時代初めの1230年ごろ、豪族の浄心（久米氏か）が自らの極楽浄土を願って建立、当初、浄心寺と呼ばれていた。しかし、大正4年の堂内の阿弥陀三尊国指定の際、「城泉寺」と誤記され、以後、城泉寺と呼ばれることが多くなったそうだ。

「阿弥陀堂の姿は、清楚で優美、単調ななかにも雄渾な風格を示しています。質実剛健の鎌倉の時代精神がその建築様式によく反映されています。当時の最新建築が、球磨の山奥にどうしてこんなに早く伝わったかと思議なくらいです」と文化浸透の早さに驚く。

堂内には内陣が設けられ、阿弥陀如来像とその両側に観音菩薩と勢至菩薩の両脇侍像が安置されている。いずれも国指定の文化財で、作は寛喜元年（1229年）とある。阿弥陀堂東側には九重石塔、七重石塔が土塁上に建っているが、そのいず

れも1230年に建立された国指定の文化財である。

さらに、十三重石塔は明治初め、廃寺になった後、大正3年に八代に移されていたが、まちのシンボルを元の位置に建設すべく町民の浄財を集め、平成4年、町民の夢を実現したそうだ。この十三重石塔の隅木の先には鬼の面が刻まれている。それも、ひとつひとつがすべて異なる表情をしている。石の隅木先に鬼面を彫り込んだのは世界的にも珍しく、ある学者はこの地方独特の様式を人吉様式と名付けたそうだ。

町の文化財保護委員長でもある藤田氏は、「文化財を発掘する、火災から守る、文化財を活用するーを3本柱に考えているが、先祖の理想を受け継ぎ、かけがえのないものを子孫孫に伝えていきたい」と語りかける。

地藏さん背負って結婚式へ

「城泉寺は、子供の頃からの私たちの遊び場でした」と、町で鍛冶工場を営む上米良秀人氏。同氏は、手打ち刃物を製造販売しているが、まちづくりにも積極的に参加、人吉球磨地方の方々を対象にカスタムナイフクラブを主宰したり、各地で開催される物産展などでナイフで伝統工芸の技を披露したりしている。集落ごとにあるお寺は町民にとって、とても身近な存在で、「全然、違和感がなかった」と同氏は説明してくれた。

「湯前はみ仏の里ですから」と強調するのは、町企画振興課の養田敏次課長。近所

にお堂がたくさんあって、雨の日など、お堂のなかで屋根裏まで入り込んでかくれんぼしたり、仏像を扱って遊んだり、み仏の里に生まれたという意識がなくとも、「自然にみ心に守られて育った」と振り返る。集落ごとにお堂やお地藏さんがあるのは、球磨全体がそうなのだ。生活のなかに「み仏」が溶け込んでいる。面白い風習もある。結婚式に地藏さんを出席させるため、若者たちが地藏さんを背負って会場に運び込んだりするんですよと、上米良氏は笑いながら教えてくれた。

那須氏が「湯前よ起きろ」

山懐に抱かれた湯前の風景のなかには、神仏を敬う心を育む伝統が折り込まれている。まんが美術館の故那須良輔氏の政治風刺画を見ているうち、その批評精神の根底には、湯前の風景があるのではなからうかと思った。み仏を敬う心を抱きながら、現実の政治を眺めるとき、政治の世界のいびつさがより端的に感じられたのではなからうか。

湯前まんが美術館・公民館は、第三セクター「くま川鉄道」の終着駅・湯前駅のすぐ近くに建っている。駅のホームは総檜造りで広々としており、多目的広場としても利用できるそうだ。

まんが美術館の敷地は、元は営林署の土場だった。中央公民館が老朽化し新築することになり、駅前開発の一環として同敷地に公民館を建設することになった。「那須良輔先生には、生前に講演していた



十三重石塔の鬼面には様々な表情が

だいたことがあります。そのとき、自然のなかで育ってきた喜びがいつも自分の心の中にある、「湯前よ起きろ」と話されました」と養田氏は振り返る。

その那須氏の業績を称える那須良輔記念館（まんが美術館）を公民館とともに建設することになり、アートポリス事業に参加した。設計は、熊本大学講師の桂英昭氏とAIRが担当した。

「当初、ごく普通のおとなしい案とキジ車案の2案が提示され、そのどちらを選ぶか、ということになりました。せっかつくるなら、インパクトの強い案を、ということになり、現在の案に決まったのです」と養田氏。議会から意見を求められ、キジ車案を推薦したところ、審議の結果、同案に決定してしまった。逆に、ビックリしたそうだ。

その建物は、春の花が咲いた広い前庭に向かい、4棟のキジ車が思い思いの姿で心地よい風に吹かれているように見える。山々の緑とは対照的な銀色のキジ車が、太陽の光りの下で、のんびりと時とともにたたずんでいるようだ。

町立の湯前まんが美術館ー那須良輔記念館ーがスタートして4年。「まんが好きの人なら、この美術館の存在を知ってもらっていると思います」と、町教育委員会社会教育課の清下昌美氏が報告する。「まんが」でまちづくりをしている自治体は多いが、町で美術館まで持っているところは少ない。年間1万人は入館してもらえるようになった。

同美術館・公民館を舞台に展開する催しで、最大のものが町が主催する10月末の「まんがフェスタ」で、そのときには『那須良輔風刺漫画大賞』を発表する。今年

で第五回を迎えるが、同大賞は「庶民感覚でみる世相」がテーマで、昨年は全国から約460点が応募してきた。

交流拠点目指し続々と整備事業

地域の歴史文化としては「み仏の里」がある。近年の目玉としてはアートポリス参加のまんが美術館がある。それでも、町の人口5400人で横ばいで、高齢化率も高まっている。これから、まちをどのように活性化していったらいいのか。

養田氏は、町の3つの拠点として、
1. まんが美術館周辺の駅前周辺
2. 南側の城泉寺周辺
3. 日本一の水車があるレジャー施設・湯前グリーンパレス

を上げ、この3拠点を結んでまちおこしを進めていくーと説明する。目玉事業はいくつかある。まず、拠点を結ぶ交通網を整備するため、城泉寺とグリーンパレスをつなぐ「ふるさと農道」を平成9年度までに完成させる。

オープンして15年になるグリーンパレスのなかには、この4月に冷暖房完備で檜風呂までついているコテージを6棟オープンさせた（申し込みはグリーンパレス事務局0966-43-4545）。

このグリーンパレスにはキャンプサイトも充実させるが、さらに標高250メートルに温泉センターと宿泊施設、農業加工体験施設を計画。現在設計中で、平成9年12月には完成、同10年3月にはオープンさせる。この温泉センターは山の頂上にあり、360度のパノラマが楽しめる。大人たちは温泉に浸りながらリフレッシュし、子供たちはなだらかな丘にある遊園地で遊び、親水性の池で魚を取ったり

できるようにする。さらに、その隣には7000平方メートルのオートキャンプ場も計画、平成11年頃オープンさせる予定だ。

町では、この4～5年間に約20億円を投入、町民に健康でより快適な生活を営んでもらうとともに、町外の人々が親も子も楽しめるリフレッシュセンターとして町全体を整備していく計画だ。

ハード面の整備が進むだけに、ソフト面をどのように充実させていくか。

「これからは、町民がどのようにまちづくりを受け止め、盛り上げていくかが重要です。「み仏の里」も含めて、湯前の魅力を積極的に宣伝していかなければならない」と上米良氏。同氏は、自分でつくっている「ふるさと館」に、北海道で見たキタキツネの木彫りを見よう見まねで作成展示したところ、とても好評だったと自分でも驚いている。「まちが魅力的だったら、ひとが人を連れて、町外からやってきてくれる」と確信する。

郷土史家の藤田氏は「祖先たちは神社仏閣を敬うとともに、山の中には動物たちの魂も慰める山の神も奉ってきた。そんな祖先の厚い信仰心を子孫孫に伝え、道義面を培っていきたい」と話す。

養田氏は最近、都会から移住してきた大学卒の夫婦のことを紹介しながら、「心豊かでゆとりある生活を送るために、都会で傷んだ心をリフレッシュするところが湯前です。町民全体でそんな雰囲気盛り上げていけたら」と願う。そして「ふるさとを思うなら、言葉の文化が大事。球磨弁ですたい。すたってきたとが一番さびしか。言葉は捨てちゃいかん」と最後に一言。



湯前まんが美術館・公民館

新地団地D：西岡弘氏

多様な住まい方が持つ エネルギーを刻印する



熊本市営新地団地D。壁は鮮やかに塗り分けられた

石丸捷一

ずいぶん長いプロジェクトでしたね。新地団地は5期に分けて建て替えが進められ、私が担当した同団地Dはその4、5期に当たります。設計開始は約7年前ですから、完成までずいぶん長かったですね。

どんな意図で設計に望みましたか。

建替え前に市営住宅が持っていたある種のバラック的なエネルギーを、そんな土地の歴史性というか、地霊のようなものを構築物に刻印したいと考えました。仮設的でバラッキな土地の記憶を形態化したかったのです。温帯モンスーン地帯特有のエネルギーな住まい方の追求が今回のテーマでした。

現代は、家庭像そのものが大きく変化しています。にも関わらず、住戸の形式は、例えば共同体意識を背景としたコーポラティブハウスにしても、nLDKの域を越えていません。ただ、密集の仕方を変えているだけです。早川邦彦さんの住宅など一部の事例を除いて、住戸そのものはほとんど変わっていません。

それに、ポケベルやパソコンが個室に直に運ばれてくると、個人は直に社会とつながります。こうしたライフスタイルの変化に対して、nLDKという建築家の体質に染み込んだ基本言語で、なにほどの効果を及ぼし得るだろうか。

そこで、いっそのこと、日本人が伝統的に住戸に期待している太陽信仰に徹し切

り、主要な各室はすべて南面するよう一列に並べることにしました。しかも、それによってできる巨大な空地も、箱庭的な中庭崇拝型ではなく、風景として存在するような広場、雑草の生い茂った無表情な空地として残したかった。実際になだらかな斜面になっていますから、野球やサッカーもやりづらいし、個人的な植栽を行なうには不向きです。その分、中途半端な空間を排除し、都市的な住まい方をしながら建設当初の美観が維持できる仕掛けができたと思います。芝が貼られ、街灯なども整備されたのが私としてはちょっと残念ですが…。

色彩が印象的ですね。

外壁に、比較的彩度の高い赤、緑、青を使っています。これはできるだけ色相間が離れていた方が、経年変化によって全体の印象が影響を受けづらいと考えたからです。

ほこりや汚れを予測して、最初から中間色を施すのが一般的です。しかし、この場合、県道側から見ると、数年後にはほこりや汚れも手伝って、収容所の壁のような印象を与えてしまうでしょう。それに、神社仏閣の朱や緑色が気の遠くなるような時間を経てもなお、初期のイメージを保っていることを考えれば、これまでタブー視されてきた強い色調にこだわることもひとつの方法と思いました。それによって、土地の持っているバラッ

キなエネルギーを刻印することができます。

ただ、原色の塗料は工業製品として機械的で品がないため、何色かを調合しています。これらの色は、ほかの建物で確認済みでもありました。

褪色しやすいリシン素材による赤、青、緑、黄色などの彩度の高い色は雨や日光の直接当たりにくいアルコーブ状の部分を中心に使用しています。一番外側の外壁は褪色も考えてタイルとし、階段上のかつてのこの敷地の形状の記憶を持つところには、黄土色の壁、濃いグレーの壁、彩度の高い色を施した壁を重層させることにより表現しました。

合理主義的な考え方から色が遠ざけられ、どこも同じ表情、色彩の建物で埋め尽くされてきています。形や素材、色彩によって、その土地の記憶を刻印することをもう一度考え直してみてもいいのではないでしょうか。

住宅は、規制の価値観が固まっていて、表層的なことしかできずらい状況になっています。その点、アートポリスは規制の価値観に貴重な一石を投じています。その意味でも、アートポリスの意義は大きいと思います。(談：西岡弘)



新地団地E：上田憲二郎氏

小さなコミュニティ・グループを大切に



中庭から見たE棟

住戸入口前の路地

熊本市営新地団地E。格子のスクリーンを通して隣の棟が見える

完成後の感想はいかがですか。

設計は7年前に終わっていたんですが、その後も毎年何か仕事がありました。一部住まいながら建て替えていく計画の4、5期という最終工期ですから、いろいろなしわ寄せが来た感じで、やはり大変でしたね。

新地団地全体が県道により、高密度な東側と低密度な西側に分かれている。E棟はその西側にあり、しかも、敷地が曲線ですが一番広いところです。ほか県道に沿って直線的で都市的な建物をイメージしたのに対し、私は曲線的で田舎風の郊外的なものを狙いました。

それは、私自身が公団住宅に住んだ経験があるからです。住んでみて、ドアをあけると長い廊下が見えたり、エレベータに行くまで誰も会わなかったりすると、ちょっと不気味な気持ちになるわけです。いまの団地居住者は、他人と一緒に住みたいわけではないけど、団地で仕方がないから一緒に住んでいるという人たちが大部分ではないでしょうか。お互いの付き合いも、子供を通してとか、階段で顔を合わせるようになって自然に話さようになったというのが多いと思います。

そこで、3戸を3層に重ねた直方体を1ユニットとし、2ユニットが階段室を共有することで、向こう三軒両隣の親密なコミュニティが形成しやすいようにしました。階段室組が路地に向き合って、もう少し大きなグループとなり、団地として、

通りのコミュニティにつながることを期待しています。

外に出るのに緊張して出かけるのではなく、農家のような気楽な付き合い方と、町屋的なプライバシーの確保が程よく調節できるような、ファジーな環境にしたかった。それでいて、朝出かけるとき、清々しい気持ちで「今日も1日ががんばろう」と思えるようにしたかった。

格子が印象的ですね。

3層に重ねた1ユニットの一部が格子になっています。ファジーな共有の屋外空間で、内と外を暗示する見えないスクリーンの様な役割を果たします。外部からは庭のように思えるでしょうし、内部の人たちからは、暗黙の境界で守られた部分のような気持ちになるでしょう。現実には、お花や自転車が置いてあったり、洗濯物が干してあったり、いろいろな使われ方をしているようです。

住棟は3階建てで高さが10m、平面的にも約10m角です。住戸はその10m角をタテ・ヨコ3等分で合計9等分し、その4つを屋外、のこり5つをL型プランとしています。L型に配置した各室は2面開口で、通風や採光に有利です。2、3階のバルコニーもできるだけ大きく確保しています。

D棟から見上げたときの緑の原っぱが爽快ですね

あの辺は、私の子供の頃の遊び場でした

から、昔のような野っ原の風景にしたかったのです。草が生え、虫が出てきてもいいじゃないですか。フランスの丘のようななだらかな曲線を描く野っ原をなんとか確保したかった。

でもその分、造成の設計も大変でした。山を削ったり、盛土したりする作業を、実に繊細に行わなければなりません。時間のかかる作業を、一部の建物には入居した状態の中で行わなければならない。でも、あの原っぱが出来て本当に良かったと思っています。

西岡氏のD棟が強い印象を持っていますから、原っぱを通してE棟を見上げたときに、D棟の風景となるように、原っぱ側の面は極力デザインせず、無表情にしています。お互いが自己主張し、うるさくなるようなことは避けたかった。

その分、曲線を描きながら2列に並んだ上部の住棟のなかには、伸びやかな気持ちで歩けるように、はしゃいだ雰囲気になっています。住戸の扉の色も微妙に変化させているのですが、特に、格子のダキ部分には少し強い色を使っています。昼間の人通りが少ないときでも、楽しく歩けるようにしたかったのです。きっと、空を見上げたとき、格子が青空に浮き立つことでしょう。(談：上田憲二郎)



第1回「くまもとアートポリス推進賞」 受賞8作品決まる

熊本県は、質の高い独創性のあるデザインを有するなど、総合的に優れた建造物を表彰することで、環境デザインに対する関心を高め、都市文化並びに建築文化の向上による地域づくりを図ることを目的に、「くまもとアートポリス推進賞」を創設しました。

本賞は、単にデザインが優れているだけではなく、技術的な提案、良好な施工、利用面における創意工夫、良好な維持管理及び人や環境に優しい配慮がなされていること等を総合的に評価して、選考されるものです。

くまもとアートポリス推進賞の受賞作品が決まった。故木島安史氏が設計した小国町立西里小学校など8作品に第1回目の受賞という栄誉が贈られた。候補作品には87点の推薦があり、第1次選考で21点に絞り、第2次選考で現地審査などを行ない、慎重に審査した結果、下記の8点を選ばれた。

表彰された物件の事業主、設計者、施工者および講評は次の通り（事業主…設計者…施工者の順）。



八代広域行政事務組合消防本部

八代広域行政事務組合…(株)伊東豊雄建築設計事務所…大日本土木(株)・木村建設(株)・(株)松島建設JV、東芝空調(株)・東設備工業(株)・(有)野田設備建設JV、(株)九電工・白鷺電気工業(株)・旭設備工業(株)JV
 <講評>九州縦貫道八代インターと八代

港を結ぶ幹線道路、臨港線沿いに建てられた消防本部の建物で、消防本部としての機能を重視すると共に、市民に開かれたオープンな施設とするために、建物全体が高いピロティで空中に持ち上げられている。

極限まで細くされた柱の上ののった大きな弧を描く2階は、日本人がまだ見たことがないような軽さを印象づけ、公共建築の新しい姿が生まれた。消防本部職員の律儀な保守管理と、市民の愛情とが相まって、八代の誇りとして人々に馴染んでゆくことが期待される。



株式会社野田市兵衛商店流通団地営業所
 (株)野田市兵衛商店…(株)ワークショップ…(株)小竹組

<講評>熊本市の流通団地に所在する既存の事務所と倉庫を繋ぐ建物で、敷地の有効利用を図るために建物を2階に持ち上げている。極度に軽量化された構造体、壁から浮き上がった曲面天井、西日を避けるために設けられたヴェランダの活用、新しい空調システムなどの工夫を積み重ねて、ガラスの被膜に包まれた交流の空間として新しいタイプのオフィス空間を創造した。それらの工夫は近代建築のオーソドックスな手法に沿ったもので、理解され易く、多くの人の共感を得ることだろう。優れた商業建築として高く評価される。



東陽村石匠館

東陽村…木島安史+(株)計画・環境建築…(株)盛建設

<講評>肥後種山の石工のふるさととして、数々の眼鏡橋が残っている東陽村に建設された、眼鏡橋に関する資料館である。華やかな六弁形の展示館と多目的ホールからなる石匠館を造るために、中国から石工を招聘し、新しい採石場を開発して、過去多くの眼鏡橋の材料となった容結凝灰岩を切り出し、積み上げた石積みの上に、軽々とした木造の屋根を載せている。曲面を駆使した巧みな造形によって、建物自体もう一つの展示館になっている。資料館の運営並びに維持管理の努力も評価される。



小国町立西里小学校

小国町…木島安史+(株)計画・環境建築…(株)橋本建設

<講評>現在の生徒総数23名という山間の小さな小学校で、複式学級の教育が行なわれている。我々が小学校に寄せる夢や望みを、そのまま現実の姿として建て上げたら、こういう形になるかと思われる建築である。おとぎ噺のような建築の美しさと、その中で繰り広げられている行き届いた教育は、ここに学ぶ子供たちの暖かい心を膨らませ、生き生きと輝く目を持った少年に育て上げるに違いないと思われる。



清和物産館(四季のふるさと)

清和村…(株)石井和紘建築研究所…(株)日動工務店

<講評>清和村活性化の方策として企画された文楽館と一体として構想された、物産の展示即売のための施設である。設計者が割り箸構造と名付けた特殊な屋根構造をもつ柱だけの建築で、両側面の柱は緩く湾曲した円弧を平行移動させた曲線上に配置され、その上に並行した、いわゆる割り箸構造の合掌が平行に並べられている。このように特殊な構造を持っているので、施工技術的には難しい問題があったと想像される。文楽館と一体となって清和村を活性化する核となり、ハード、ソフト両面の工夫により多くの来館者を集めている。



出田眼科病院

医療法人出田会出田眼科病院…(株)NTTファシリティーズ九州支店一級建築士事務所…(株)鴻池組

<講評>76年の歴史を持つ由緒ある病院の増築に当たって、これまで培った医学の技術の上に立って、地域に密着したアメニティ・ホスピタルを目指すという院長の方針に従って、病院らしくない病院、質の高い居心地をもったアットホームな病院となっている。施設の一部を開放したり、入口回りの段差をなくしてバリアフリー化を追求するなど、近隣社会への貢献や繋がりにも細かい配慮が見られる。デザインの新奇さを追求するのではなく、町の中に立つ建物として、なすべきことをきちんと実現していることが評価された。



尚玄山荘

(有)有明総業…(株)竹中工務店九州支店設計部…(株)竹中工務店九州支店

<講評>玉名で孝行息子として言い伝え

られている徳永尚玄に因んだ温泉保養所・宿泊施設である。観光客ばかりでなく、地域住民、近隣のお年寄り、障害者など多くの人々に日常的に親しまれている。建物は入口に新たに設けられた人工の水盤のような抽象的な庭と、背後にある既存の日本式庭園の間にあり、利用者はガラス壁によって切り取られる様々な外部空間を室内で感じることが出来るように配慮されている。建物を多う瓦葺き大屋根は単純で清潔な外観を引き締めている。



荒瀬ダムボートハウス

坂本村…桂英昭 + AIR…山口建設(株)、(合)平野電気設備工業所、(株)向洋設備工業

<講評>現在漕艇場として利用されている荒瀬ダム湖に沿って建てられた高校・大学のボート部の合宿所で、競技が行なわれる時には本部・観覧場となり、空いているときには近隣住民の集会場にも利用されている。建物は、湖に沿って100m近くも一直線に伸びる木造建築で、白ペンキ塗りの瀟洒な外観はボートのクラブハウスに相応しい端正な力強さを印象づけ、周囲の自然と調和している。長大な廊下に沿って設けられた諸室は抑制の効いた質素さの中にのびのびとした解放感があり、山村に造られるスポーツ施設として出色の建築である。

アートポリス'96インフォメーション オーケストラがやってくる!

アートポリスを考える会は1996年9月21日(土)午後4時から、「アートポリスにオーケストラがやってきた」を熊本市営新地団地D、E棟間の中庭を舞台に開催する。催しはKAP'96の協賛事業でもある。この催しは2部構成になっており、第1部(午後4時~6時)クイズ大会を実施、第2部(午後6時~7時半)で熊本ユースシンフォニーオーケストラが演奏する。なお、昼すぎから自治会主催のバザーなども開催の予定。



くまもとアートポリス・プロジェクトガイド

くまもとアートポリスのこれまでに竣工・完了したプロジェクト、そして現在進行中のプロジェクトを一堂に集めました。竣工プロジェクトには、これから作品を見に行かれる方のために住所などのデータを掲載しました。巻末の地図と併せてご利用ください。

- 

1 熊本北警察署
篠原一男+大宏設計事務所…警察署…9010
熊本市草葉町5-13…熊本交通センターからバス「白川公園前」下車…内部見学、写真撮影は要許可、バス駐車不可…熊本北警察署警務課 096-323-0110
- 

2 県営保田窪第一団地
山本理顕…集合住宅…9112
熊本市帯山1-28…熊本交通センターからバス「上保田窪」下車…外観のみ見学可、駐車不可、中庭は入れません
- 

3 加久藤トンネル換気所
小山明+パンフィックコンサルタンツ…トンネル換気施設…8908
熊本県人吉市大畑町、宮崎県えびの市東川北…国道221号線加久藤トンネル脇…外観のみ見学可
- 

4 三角港フェリーターミナル
葉祥栄…旅客待合所…9003
三角町大字三角浦…JR三角駅前…7:30～19:30
- 

5 八代市立博物館未来の森ミュージアム
伊東豊雄…博物館…9110
八代市西松江城町12-35…JR八代駅からバス「法務局・博物館前」下車…9:00～17:00…月休…入場300円（常設展）…0965-34-5555
- 

6 熊本市花畑パークトイレ
大塚豊一…公衆トイレ…8910
熊本市花畑6…熊本交通センター前、花畑公園内…近隣に駐車場あり
- 

7 熊本市上江津湖畔トイレ
日田兆…公衆トイレ…8905
熊本市神水本町16-11…JR熊本駅から市電「八丁馬場」下車
- 

8 熊本市営新地団地A
早川邦彦…集合住宅…9107
熊本市清水町新地…熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車…外観のみ見学可、駐車不可
- 

9 熊本市営新地団地B
緒方理一郎…集合住宅…9203
熊本市清水町新地…熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車…外観のみ見学可、駐車不可
- 

10 熊本市営新地団地C
富永謙…集合住宅…9311
熊本市清水町新地…熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車…外観のみ見学可、駐車不可
- 

11 熊本市営新地団地D
西岡弘…集合住宅…9506
熊本市清水町新地…熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車…外観のみ見学可、駐車不可
- 

12 熊本市営新地団地E
上田憲二郎…集合住宅…9506
熊本市清水町新地…熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車…外観のみ見学可、駐車不可

- 

13 県道橋景観整備 (基礎調査)
倉俣史朗+高木富士川計画事務所…完了
- 

14 熊本市営託麻団地
坂本一成+長谷川造子+松永安光…集合住宅…9404
熊本市新南都町33…熊本交通センターからバス「託麻団地入口」下車…外観のみ見学可、駐車不可
- 

15 光のまちづくり (まちづくり構想)
岩崎敬+瀬口英徳…構想完了
山鹿市
- 

16 牛深ハイヤ大橋 (工事中)
レンゾ・ピアノ+ピーター・ライス+岡部憲明+マエダ…臨港道路
牛深市
- 

17 県営帯山A 団地 (公開コンペ)
新納至門…集合住宅…9203
熊本市帯山1-23…熊本交通センターからバス「上保田窪」下車…外観のみ見学可、駐車不可
- 

18 五名市文化施設構想
豊田文生…構想完了
玉名市
- 

19 湯の香橋
岸和郎…遊歩橋…9105
芦北郡芦北町湯湯…JR湯浦駅からバス「湯浦橋」下車…夜間照明 19:00～22:00
- 

20 清和文楽館
石井和雄…文楽劇場+展示館…9203
上益城郡清和村大字大平原口152…熊本交通センターから馬見原行バス「清和文楽村」下車…9:00～17:00…月休…入場400円（常設展）1200円（公演時）…定期公演：2・4日曜…0967-82-3001
- 

21 県立装飾古墳館
安藤忠雄…歴史資料館…9203
鹿本郡鹿央町岩原3085…山鹿産交/バスターミナルから車…9:30～17:00…月休…入場400円…0968-36-2151
- 

22 球磨工業高校伝統建築実習棟
象設計集団…工業高校実習棟…9103
人吉市城本町800…JR人吉駅から徒歩…見学、写真撮影は要許可…0966-22-4189
- 

23 鮎の瀬大橋 (工事中)
大野美代子+中央技術コンサルタンツ…橋梁
上益城郡矢部町
- 

24 公園ファニチャーデザイン、同整備マニュアル (構想)
沖健次+東京ランドスケープ研究所…完了

- 

25 松島町合津終末処理場管理棟
斎藤宏…管理棟…9303
天草郡松島町大字合津4276-387…JR三角駅から松島行きバス「松島バスターミナル」下車…見学、写真撮影要許可…1969-56-3195
- 

26 石打ダム管理所
青木茂…ダム管理事務所…9102
宇土郡三角町中村…JR石内ダム駅から徒歩1.5km…外観のみ見学可
- 

27 県営新渡鹿団地
小宮山明…集合住宅…9303
熊本市渡鹿3-854-1…熊本交通センターから戸島（一本木）行きバス「渡鹿7丁目」下車…外観のみ見学可、駐車不可
- 

28 大津町第二庁舎・県民交流施設 (構想)
鈴木了二…設計完了
大津町
- 

29 玉名天望館
高崎正治…展望、学習コミュニティ室…9209
玉名市大倉字桃田1144…熊本交通センターから玉名、荒尾行きバス「玉名大橋口」下車…玉名市都市計画課 0968-75-1122
- 

30 大甲橋景観整備 (構想)
倉俣史朗…橋梁…設計完了
- 

31 草地産産研究所畜舎
トム・ヘネガン+インガ・ダグフィンズドッター+桜樹会・古川建築事務所…畜産研究施設畜舎…9209
阿蘇郡阿蘇町大字西湯湯…JR阿蘇駅より車…外観のみ見学可
- 

32 再春館レディースレジデンス
妹島和世+女子社員寮…9108
熊本県帯山4-323-1…熊本交通センターからバス「保田窪本町」下車…外観のみ見学可…再春館製薬所総務課 096-384-5555
- 

33 県立美術館分館
エリアス・トーレス+ホセ・A・M・ラベニア+大和設計…美術館…9210
熊本市千葉城町2-2…9:30～18:30（土、日など17:00まで）…熊本交通センターから徒歩10分…月休…駐車不可…096-351-8411
- 

34 湯前まんが美術館・公民館
桂英昭+AR…美術館+公民館…9211
球磨郡湯前町字上牧原1834-1…くま川鉄道湯前駅から徒歩…9:00～17:00…月休…入場料：300円（大）100円（小中）…0966-43-2050
- 

35 県営竜蛇平団地
元倉真琴…集合住宅…9402
熊本市帯山3-1…熊本交通センターからバス「東水前寺」下車…外観のみ見学可、駐車不可
- 

36 つなぎ物産ギャラリー・グリーンゲート
北山孝二郎…物産センター+公園…9206
芦北郡津奈木町岩城1601…JR津奈木駅よりバス「竹中」下車…10:00～18:00…水休…道向かい文化センターに駐車場あり…0966-78-2000
- 

37 教会の見えるチャペルの鐘展望公園
梅田正徳+スペースデザイン…公園…9303
天草郡河浦町崎津…本郷バスセンターから牛深行きバス「一町田中央」下車、雷岡行きに乗り換え「教会入口」下車…河浦町役場企画調整室 09697-6-1111
- 

38 花の温泉館
ワークショップ…温泉センター+温室…9312
阿蘇郡産山村大字田尻字下釜蓋…JR宮地駅から車…10:00～21:00…第1・3・5火休…入浴500円…0967-25-2341

- 

39 TOTO AQUAPIT ASO (公共トイレ)
木島安史…公衆トイレ…9203
阿蘇郡白水村山上広場…阿蘇山ロープウェイ阿蘇山西駅前
- 

40 白川橋景観整備
藤江和子…橋梁…9211
熊本市二本木…JR熊本駅より徒歩
- 

41 杖立橋+Pホール
新井清一…歩道橋+多目的室
阿蘇郡小国町
- 

42 石打ダム資料館
入江経一…資料館…9304
宇土郡三角町中村字八久保…JR石内ダム駅から徒歩1.5km…9:00～17:00…月休…0964-54-1191
- 

43 天草ビジターセンター・天草展望休憩所
古谷誠章+中川建築設計事務所…博物館展示施設、休憩所…9407
天草郡松島町永浦島…熊本交通センターから産交バス本渡行き快速で約100分「融合入口」下車徒歩100m
- 

44 うしぶか海彩館 (工事中)
内藤廣…物品販売、展示、待合室、レストラン、視聴覚室など
牛深市牛深町
- 

45 不知火町文化プラザ (設計中)
北川康通+伊藤建築事務所…図書館、美術館、温水プール、広場
宇土郡不知火町
- 

46 馬見原橋
青木淳+中央技術コンサルタンツ…橋梁…9506
阿蘇郡蘇陽町
- 

47 天草工業高校実習棟 (工事中)
室伏次郎+SDA建築設計事務所…工業高校実習棟、体育館
本渡市
- 

48 熊本北警察署坪井交番
マニユエル・タルテイツツ+加茂紀和子…交番…9503
熊本市坪井町
- 

49 泉村ふれあいビジターセンター (工事中)
武田光史+ロゴス設計同人…物産館、視聴覚センター
八代郡泉村
- 

50 有明フェリー長洲港ターミナル
石田敏明…フェリーターミナル
玉名郡長洲町
- 

51 荒尾警察署長洲交番
塚本政利+設計機構ワークス…交番
玉名郡長洲町
- 

52 県立芦北青少年の家 (設計中)
エリア・ゼンゲリス+エレニ・ジガテニス+鈴木了二+島村建築設計事務所…青少年教育施設
芦北郡芦北町

新規プロジェクト決定：
53 草千里公衆トイレ (設計中) …熊本由崎+斎藤百穂建築設計事務所…阿蘇郡長門村
54 宇戸マリーナクラブハウス (設計中) …吉松秀樹…宇土市

※なお、見学の際は、建物所有者、居住者および周辺の居住者に迷惑のかわらないよう十分注意してください